

# 東京の救急の現状



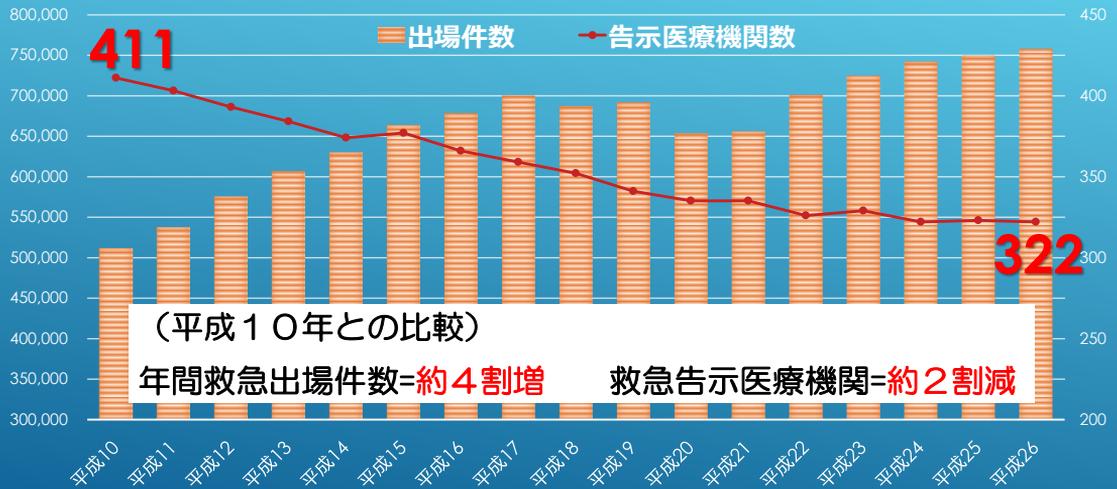
東京消防庁救急部副参事 緒方 毅

Tokyo Fire Department  
EMERGENCY MEDICAL SERVICE DIVISION

## 救急出場件数の推移



## 東京都における救急出場件数の推移と救急医療体制の推移



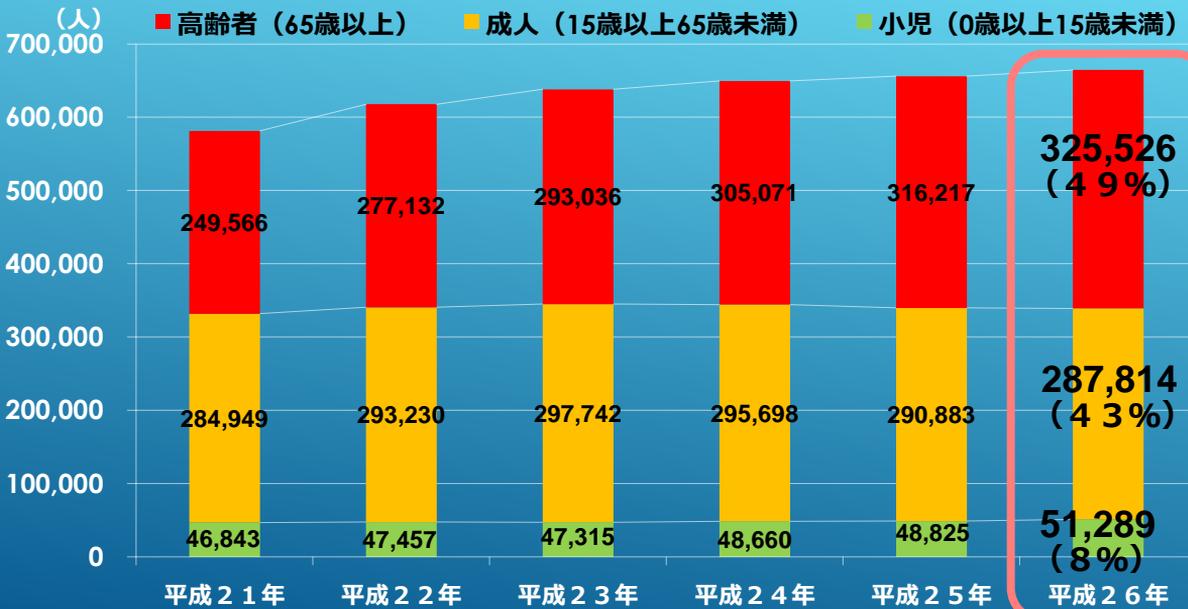
\* 救急告示医療機関数は各年4月1日現在

## 救急出場件数等の推移

項目	平成21年	平成26年	増加数	増加率
総出場件数	655,631件	<b>757,554件</b>	101,923件	15.5%
1日平均出場件数	1,796件	<b>2,075件</b>	279件	15.5%
1隊あたり 平均年間出場件数	2,863件	<b>3,196件</b>	333件	11.6%
1隊1日平均出場件数	7.8件	<b>8.8件</b>	1.0件	12.8%
都民(国民)の 救急車利用状況	19人に1人	<b>17人に1人</b>		
救急隊数	229隊	<b>237隊</b>	8隊	3.5%
出場頻度 (何秒に1回の割合)	48秒に1回	<b>42秒に1回</b>		

※平成27年4月1日現在 240隊で運用

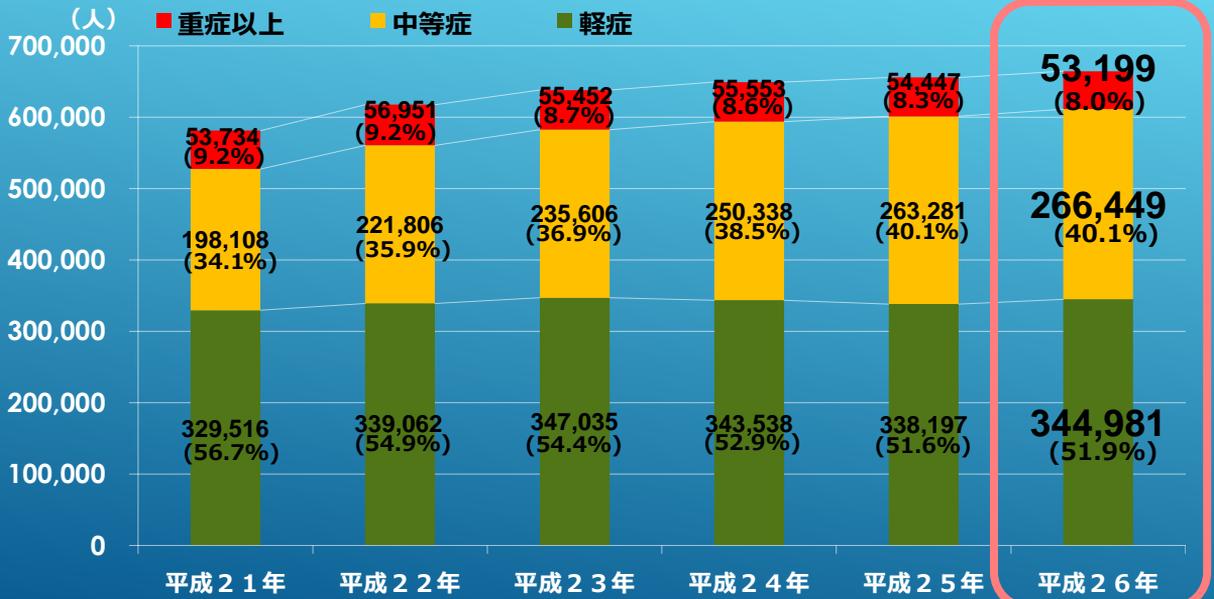
## 年齢別搬送人員の推移



## 救急隊の活動時間



## 程度別搬送人員の推移



## 東京都救急搬送実態調査

調査期間

平成26年12月3日8時30分から  
12月10日8時29分までに覚知した  
救急事案

(東京消防庁・稲城市消防本部)

平成26年度調査テーマ

- ・高齢者の救急搬送の実態
- ②救急車の適正利用の実態

【転帰】



※65歳未満の方は、  
「外来のみで帰宅」が72.5%

## 頻回要請者

年間30回以上救急要請をした傷病者数及び総要請回数

救急頻回要請者	107人
総要請件数	6,560件
重症以上	31件
中等症	654件
軽症	2,537件
不搬送	3,338件

(平成26年)



## 頻回要請者事例

119



◆70歳代の女性、不安感のため深夜3時に自ら救急車を要請した。  
救急隊が女性を観察した結果、特段、異常は見られなかった。  
女性は救急隊員を引き留め、2時間程度話をした後、病院に行く気はないと  
救急隊員に伝えたため、救急隊は引き揚げた。(平成26年中 362回要請)

◆60歳代 左足示指に痛みがあるとのことで救急車を要請した。  
飲酒しており、救急隊員の観察に対し非協力的で「何度も同じことを言わせるな、もう帰れ」と暴言があった。かかりつけの病院へ連絡をしたところ、「今朝から何度も病院へ連絡してきており、指が痛むのは痛風のためで、薬はすでに2週間分処方してあります」と情報があつた。本人に確認したところ、「薬を飲む。病院には行かない。もういい、早く帰れ」と言ったため救急隊は引き揚げた。  
(現場滞在時間は約40分)

## 老人施設・程度別搬送人員



## 老人施設事例

90代の女性。具合が悪いとのことでの救急要請。救急隊が出場途上、入所者の状態を確認するために、救急隊から施設に連絡したところ、電話に出た職員が救急要請されたこと自体を把握しておらず、状況を確認するまでに時間を要した。

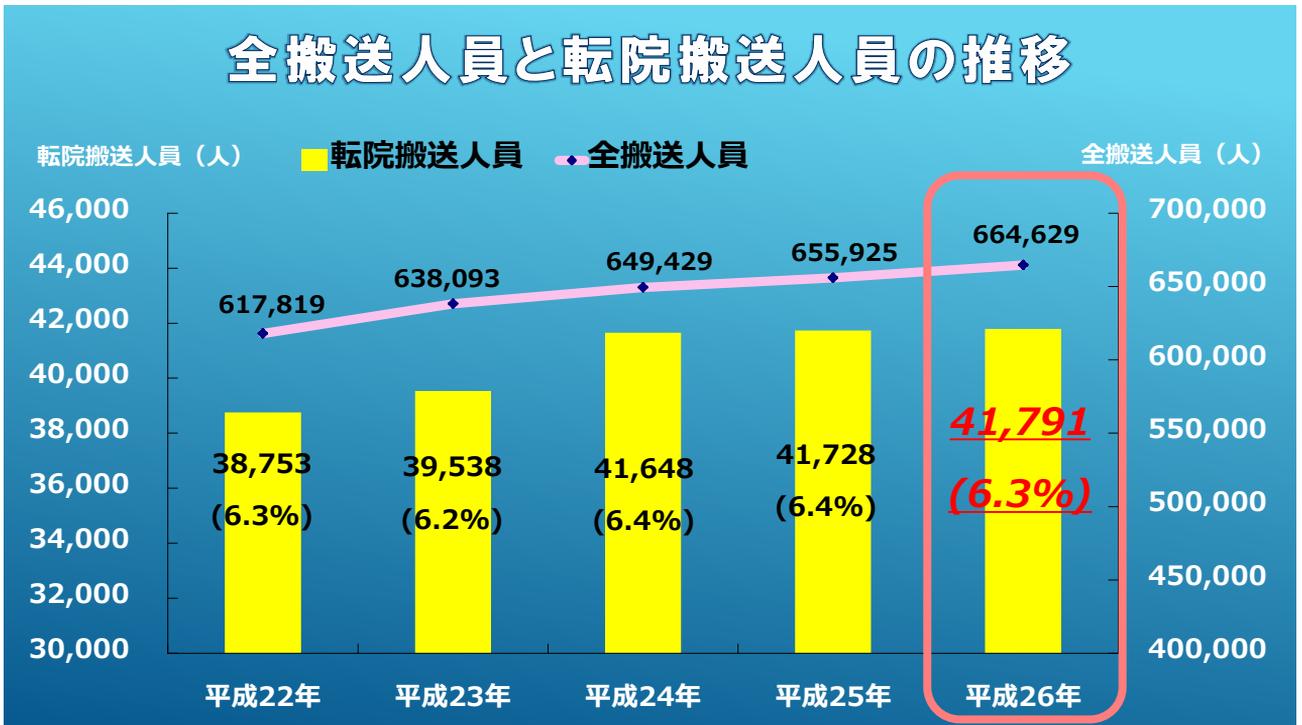
また、協力病院への連絡を依頼したが、何かあった場合には、救急車を要請することがマニュアルで決まっているとのことで、救急隊到着時、協力病院への連絡はされていなかった。

受入先病院を確保するために、救急隊から協力病院に連絡したところ、「うちは別に受け入れる義務はないから、他を当たってくれよ」と断られた。

その後、他の病院に連絡するも「このレベルで診られない何て可哀しいよ。協力病院が診るべき患者であり、協力病院で受けて貰えよ。」ということで受け入れ先が決まらず、病院決定までに約2時間かかった。



## 全搬送人員と転院搬送人員の推移



## 程度別転院搬送人員の推移





## 転院搬送事例

患者は70歳代後半の女性、胃癌で医療機関に入院中であった。専門医療が必要という理由の救急要請であった。

救急隊接触時、患者はベッドに仰臥位でおり、酸素吸入及び点滴を行っていた。搬送中、医師は同乗せず、搬送前、医師からは、状態は安定しており問題はないとのことで、特段、指示等もなかった。看護師からは、受け入れ先医療機関の検査予約時間に間に合わないので早く搬送して欲しいと言われた。



## 転院搬送における救急車の適正利用等に係る要望

(平成27年6月15日全国消防長会会長)

①全国の医療機関に対して、転院搬送について、緊急性の乏しい患者の利用を避ける等救急車を適正利用する事を徹底させること。

②全国の地域医療支援病院に対して、「緊急用又は患者輸送用自動車」の有効活用する事を徹底させること。

# 救急車の適正利用広報

**救急車の適正利用のお願い!!**  
 (自分の親が、子どもが、仲間が、大切な人が、おしゆめどきに、救急車を呼んだのに、まだ来ない、そのときに、はじめて気が付いても遅いことを・・・)

救急車の到着時間(平均)は、**7分54秒**です。  
 平成26年 7分51秒 (47都道府県)  
 平成27年 7分55秒 (47都道府県)  
 平成28年 7分54秒 (47都道府県)  
 平成29年 7分54秒 (47都道府県)

■救急車で搬送された方で、医師の診察により**軽症と判断された場合は、全救急搬送の約1/2を占めています。**

軽症 52%  
 中等 40%  
 重症 8%

**事例1** 24歳の女性  
 急病。多分、どこかの病院に行ったら良いかわからないので救急車を要請した。

**事例2** 68歳の女性  
 腹痛。本日朝晩に人数する多分飲んでいるが、自分で行くところまでかかるので救急車を要請した。

**事例3** 8歳の男子  
 子どもが友達と遊んでいて、遊び、ひざまずいたので、母親が救急車を要請した。

**事例4** 72歳の女性  
 眠れなくて、誰かに話を聞いてほしいので救急車を要請した。

**事例5** 48歳の男性  
 料理中に台上で指を切った。傷口はすでに止まっていたが、整形外科の専門の医師がいる病院に連れて行ってほしい。

■東京都内には現在、東京消防庁管内に240機、稲城市消防本部管内に2機の救急車があります。  
 ■平成26年中の救急車の出動件数は、過去最多の約76万1千件でした。  
 ■東京は全国でも、救急車が到着するまでに時間がかかっています。  
 ■救急車の出動から現場に到着するまでの平均時間は約7分54秒でした。(東京消防庁管内)

救急車を早く到着させるために、**救急車が到着するまでに、あなたにできることは、あなたにしてほしいことは**

■救急車を呼ぶときは、**「助けられる命を助けるためには、どうしたら良いのか?」「救急車をどのようなときに呼ぶべきか?」**みんなで考えておきましょう!!

■病状へ行ったばかりなのか? 救急車を呼んだばかりなのか? 運ったら!!  
 東京消防庁救急相談センター #7119へ電話で相談!  
 23区 03-3212-2323 多摩地区 042-521-2323

東京消防庁の救急相談センターとは  
 東京消防庁本部、東京消防庁消防サービス ひまわり (03-3212-0000) (24時間受付)  
<http://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp> (PC・スマートフォン)  
<https://twitter.com/tfdmetrosupport> (Twitter)  
 消防庁やコンビニなどにも救急相談センターの案内があります。

■救急相談センターでは、心肺蘇生法や応急手当を学び、自分の出来る範囲で行動しましょう!



東京消防庁・稲城市消防本部・東京都福祉保健局・東京都医師会との  
 四者連名によるリーフレット

適正利用広報ポスター

# 救急相談センター

平成26年  
 救急相談センター受付件数  
**330,865件**  
 (昨年比16,128件増)  
**1日あたり 906件**

医療機関案内 226,123件  
**救急相談 103,688件**  
 その他 1,054件

※ 救急相談の内容の結果、救急車による  
 対応が必要と判断された件数  
**18,043件**

電話でご相談は… **迷ったら #7119** (24時間受付)

救急相談センターの主なサービス  
 ● 症状に基づく緊急性の有無のアドバイス  
 ● 受診の必要性に関するアドバイス  
 ● 医療機関案内  
 ● 24時間受付  
 ● 緊急時対応に関する相談(救急車呼出)  
 ● センター対応エリアに関する案内

24時間受付  
 ● 緊急時対応に関する相談(救急車呼出)  
 ● センター対応エリアに関する案内

救急相談センター  
 救急相談看護師 救急相談医  
 救急相談通信員  
 ● 救急相談センター  
 ● 救急相談センター

救急相談センターでは、東京消防庁救急相談センターが導入したプロコールを使用し、緊急性を判断しています。

迷わず **119** 番通報を!!

ホームページからは… 必要な時にすぐ使えるよう携帯電話やパソコンに東京版救急受診ガイドを登録しておくことができます。

携帯電話やパソコンで検索や付加の緊急性をチェック!  
**「東京版 救急受診ガイド」**  
 番電話はこちら  
 スマートフォンはこちら  
 パソコンからはこちら  
<http://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp>

## 救急相談センター



救急相談センター 受付電話番号 (携帯電話・PHS・フレッツを回線)  
**#7119**

電話で **7119**  
**東京消防庁救急相談センター**  
 主なサービス  
 ・症状に基づく緊急性の有無のアドバイス  
 ・受診の必要性に関するアドバイス  
 ・医療機関案内

ウェブで **7119**  
**東京版 救急受診ガイド**  
 主なサービス  
 ・けがや病気の緊急性  
 ・受診する時期・受診する科目

突然の激しい頭痛や急な息切れ、呼吸困難などの症状がみられたら、  
**ためらわず119番通報を!!**  
 東京消防庁 東京都医師会 東京都福祉保健局

救急相談センター広報ポスター



**ネット**でガイド

**東京版 救急受診ガイド**  
 病気やけがの緊急度や受診する科目が  
 東京消防庁ホームページで確認できる!  
<http://www.tfd.metro.tokyo.jp>

携帯電話は **こちらから**

スマートフォンは **こちらから**

東京受診ガイド (QRコード)

平成26年度実施の世論調査  
 救急相談センター認知率 **45.1%**



その電話、救急ですか？

救急車のいない消防署

救急車の出動件数は、毎年増え続けていますが、出動できる救急車の数には限りがあります。もし、緊急性のない救急車の利用が増えれば、本来近くから駆けつけるはずの救急車がいなくなってしまう。

# 東京消防庁救急相談センターの役割と実際の事例から

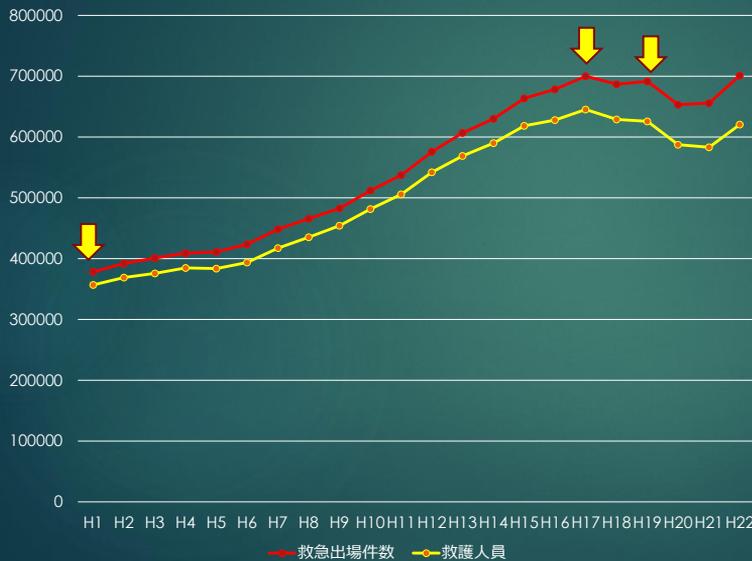


平成27年9月9日「救急の日」シンポジウム  
 社会医療法人社団 順江会江東病院 副院長  
 東京消防庁救急相談センター 副医長  
 三浦 邦久

## 救急相談センターが開設された背景

救急出場件数の増加

平成19年6月1日  
 救急相談センター開設



救急出場件数

平成元年 378,205件

1.8倍に  
 増加!

平成17年 699,971件

昨年

平成26年 757,554件

出場件数の増加により、救急車が出場してから現場に到着するまでの時間が延びる。

出場から現場到着までの所要時間

H12	H13	H14	H15	H16	H17
5分30秒	5分54秒	6分00秒	6分24秒	6分18秒	6分30秒

5年間で約1分の延長

昨年

H26

7分54秒

救命効果への影響が懸念される。

# 緊急性がない救急要請を減らすには

救急車の要請理由（複数回答）



救急車を要請した人の22.8%が「軽症や重症の判断がつかなかった」ことを理由に救急要請している。



緊急性に関して相談できる場所があれば、緊急性のない救急要請を減らせる可能性がある。

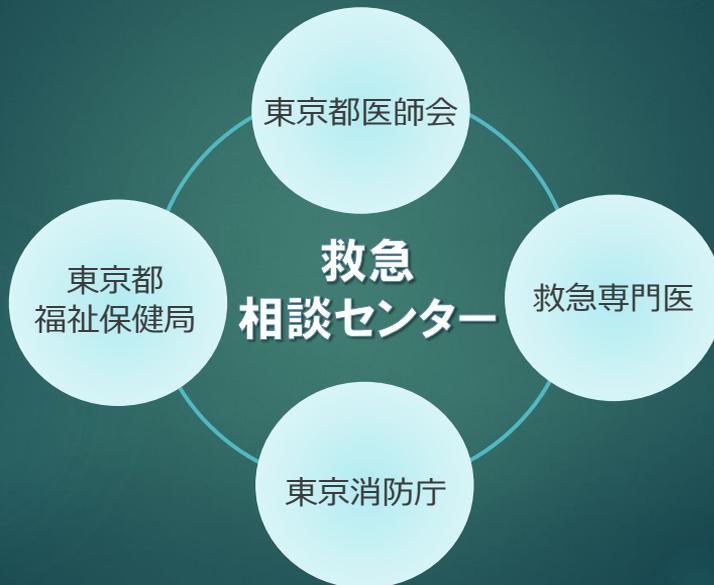
さらに、緊急性があるが、救急要請をためらっていた人に救急車の利用を勧めることができる。



平成19年6月1日  
緊急性に関する相談を主な業務とする  
救急相談センター開設

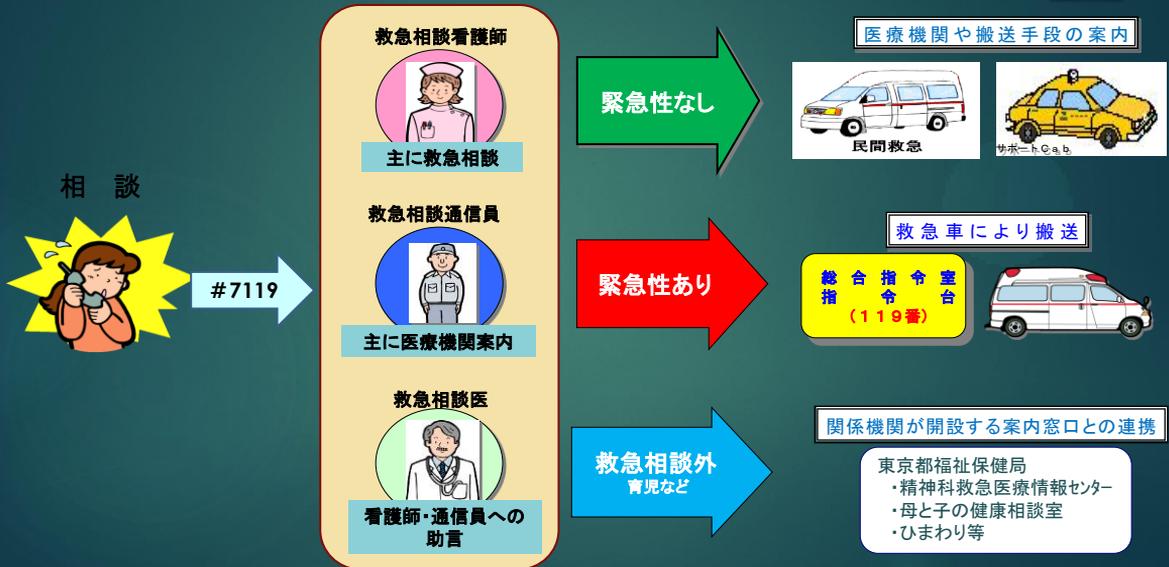
平成17年・消防に関する世論調査より

# 救急相談センターの運営



## 救急相談センターの役割

- ① 緊急性の判断 ② 受診の必要性の判断 ③ 応急手当指導 ④ 医療機関案内 ⑤ 他機関窓口の案内



## 1年間の実績（平成26年）

区分	累計	一日平均
受付件数	33万 865件	906.5件
医療機関案内	22万6123件	619.5件
救急相談	10万3688件	284.1件
119転送 (相談結果から救急要請となったもの)	1万8043件	49.4件
相談前救急要請 (相談に至る前に緊急性ありと判断され救急要請となったもの)	87件	0.2件
その他	3件	0.0件

## 救急相談センター設置の主な効果 1

「緊急度の判断ができなかったから」との理由で救急要請した人の割合を減少させた。

「緊急度の判断ができなかったから」との理由で救急要請した人は、

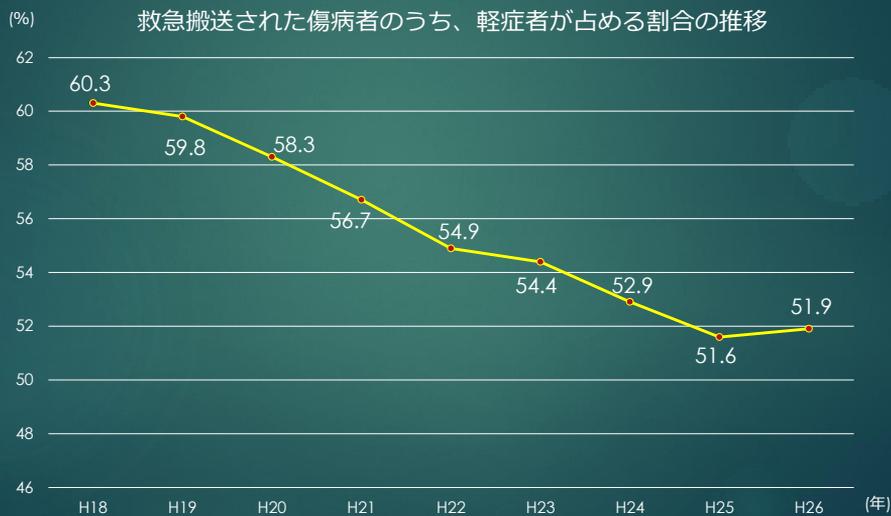
平成18年 21.8% ⇒ 平成26年 15.3%

救急相談センター設置の前年

昨年

## 救急相談センター設置の主な効果 2

救急搬送された傷病者のうち、軽症者の占める割合が減少傾向



## 救急相談センター設置の主な効果 3

緊急性があるが救急車を呼ぶか迷っている傷病者を救護した

平成26年中、救急相談の結果救急要請となり、搬送された病院で緊急入院となった傷病者の数は、 6,143人

## 実際の事例から

### 【相談事例】

- ・ 51歳男性
- ・ 庭の手入れをしていて蜂（種類不明）に刺された
- ・ 家族からの救急相談



### 【相談結果】

薬を塗ったりして様子を見ていたが、**息苦しく**なってきたため、今すぐ救急車で病院へ行くようアドバイスとなった。

救命救急センターへ搬送



アナフィラキシーショック（重症）

## 実際の事例から

### 【相談事例】

- ・ 81歳女性
- ・ 7月の正午過ぎ、買い物から帰宅後、全身が熱いと言い動けなくなった。
- ・ 家族からの救急相談



### 【相談結果】

高温環境にいたが、汗をかいていないことから、  
今すぐ救急車で病院へ行くようアドバイスとなった。

熱中症に対応できる病院へ搬送



熱中症（中等症）

## 実際の事例から

### 【相談事例】

- ・ 26歳男性
- ・ 職場で10分ほど前から頭痛 視野の異常
- ・ 同僚からの救急相談



### 【相談結果】

頭痛と視野の異常から、脳の血管の障害が疑われるため、  
今すぐ救急車で病院へ行くようアドバイスとなった。

脳卒中に対応できる病院へ搬送



脳梗塞（重症）





平成27年度「救急の日」シンポジウム

〔シンポジウムⅡ〕パネルディスカッション  
「あなたを守る、あなたが支える救急医療」

パネリスト③

## 「救急医療機関における現状と対応」

～中小規模民間医療機関の立場から～

社会医療法人社団慈生会 等潤病院  
理事長・院長 伊藤 雅史  
(東京都医師会 病院・防災担当理事)

## 等潤病院の由来



### 帝釈天題経寺

紫又は帝釈天。  
黄さん、矢切の遺し……………  
黄さんに笑い、泣いて、歌う人たちの心のふるさと。

「庚申まいり」の江戸の人びとが灯をかざして通い来たこの道につながれば、  
納即消滅・不老不死！  
修羅の巻をめぐりながら、救いの御手を垂れた、あの日の板本尊・帝釈天。  
そのあられの日の「庚申」は常に新しい生の「更新」でもあったのだ。

帝釈天題経寺山主 望月日翔

慈雨等潤の図 -薬草喻本-  
彫刻 石川信光



帝釈天



## 社会医療法人社団慈生会

**理念 地域と共に生きる慈しみのトータルヘルスケア**

### 等潤病院（在宅療養支援病院）

病床数164（一般114、地域包括ケア8、回復期42）  
 DPC対象病院、10対1、平均在院日数 11.8日、病床稼働率 84.5%  
 内科、外科、整形外科、脳外科、麻酔科、放射線科、救急科、皮膚科、  
 血液浄化センター、心臓血管センター、健診センター  
 2次救急指定、救急搬送2,622件、地域救急医療センター(東京ルール)  
 東京都脳卒中急性期医療機関B、320列CT、バイプレーン、3T-MRI、  
 東京都ワークライフバランス認定企業、病院機能評価認定

### 常楽診療所（在宅療養支援診療所）

居宅介護支援事業所常楽  
 足立東部訪問看護ステーション  
 訪問リハビリテーション  
 地域包括支援センターツツ家  
 通所リハビリテーション  
 グループホーム常楽

### 介護老人保健施設イルアカーサ

入所・ショートステイ、通所リハビリテーション、居宅介護支援事業所

## 救急搬送受入実績 2015年1～6月



		受入	応需率	入院	入院率
救急搬送患者	全体	1,277	81.4	384	30.1
	東京都	1,259	81.6	374	29.7
	区東北部	1,212	82.0	361	29.8
	足立区	963	82.9	311	32.3
	東京ルール 対受付	114	6.8%	17	14.9
直接外来受診 休日夜間		1,144		69	6.0

軽症 70%??



## 軽症者は救急搬送が不要??

軽 症	入院を要しないもの
中等症	生命の危険はないが入院を要するもの
重 症	生命の危険の可能性があるもの
死 亡	初診時死亡が確認されたもの

重症度？ 入院・外来？  
緊急度？ 特殊性？ 専門性？

平成27年6月27～30日に  
等潤病院に救急搬送され  
た軽症者（外来治療患  
者）の経過

・頻回要請者 107人  
・不救護 12.3%  
(2014年東京都)

年齢	性	経過要約
53	男性	交通事故、むち打ち
31	男性	腸炎疑い、点滴・鎮痛薬注射にて改善。翌日受診
85	男性	熱中症、点滴にて改善、翌日受診
87	女性	床に倒れ動かない、家族発見、頭部CT、経過観察、認知症
87	女性	腹痛、おむつに出血、来院時腹痛消失、CT・採血、経過観察
51	男性	脱水症、点滴、脳梗塞を否定できず、本人、帰宅を強く希望
90	女性	下痢・軽度の下血、腹痛、CT・採血、翌日再診
79	男性	食道癌末期、脱水にて点滴、本人希望で帰宅
79	男性	上記患者、帰宅後自宅で転倒、頭部打撲
78	男性	下痢、脱水、点滴にて改善
66	男性	<u>飲酒後腹痛、約2週間で5回救急搬送、いずれも飲酒後</u>
11	男性	交通事故、腹部打撲、母親と共に来院
33	男性	<u>精神科疾患、腹痛、所見は軽度、2週間で5回救急搬送</u>
26	男性	腹痛、深夜繰り返し増強、点滴にて軽快

## 退院患者要約①(一般病床入院) 2015年1～6月

	救急入院	緊急入院	予定入院
患者数	342 (25.1%)	436 (32.0%)	582 (42.8%)
平均年齢	75.7 (20～102)	72.1 (15～100)	69.8 (12～101)
65歳以上	84.2%	78.0%	73.9%
75歳以上	61.4%	58.3%	39.2%
回復期等へ転棟	43 (12.3%)	31 (7.1%)	5 (0.9%)
入院日数	25.7	19.4	8.7
除)回復期転棟	24.9	16.5	8.6
手術実施率	18.4%	20.9%	53.6%

回復期等：回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病床



## 退院患者要約② 2015年1～6月

	入院→退院%			入院日数		
	救急	緊急	予定	救急	緊急	予定
自宅	84.2→55.8	78.2→64.7	91.4→90.9	33.1	14.1	6.8
施設等	17.0→13.5	20.4→18.8	4.1→5.3	41.8	23.8	23.2
病院	2.6→14.0	1.4→6.0	4.5→1.4	33.5	35.7	47.4
死亡	16.7	10.6	2.4	18.5	35.4	26.5
自宅往診	11.4→7.9	3.9→3.7	1.5→1.5	28.5	22.4	19.7
施設老健特養	5.8→9.9	6.2→8.3	2.1→2.9	39.5	27.5	31.4
施設その他	8.2→3.5	14.0→10.6	2.1→2.4	58.0	20.8	13.2

## 東京都の救急搬送実態：他県比較

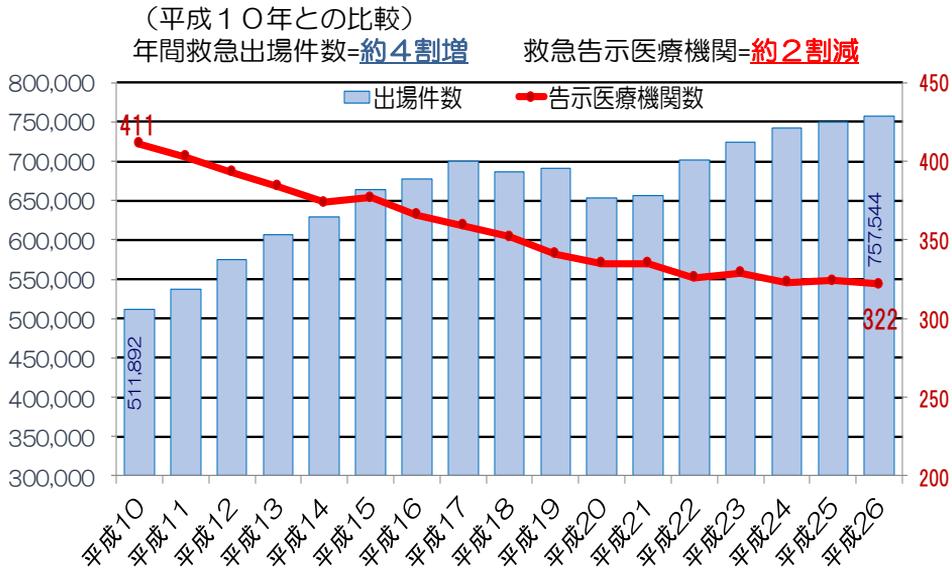


平成26年版救急・救護の現況(総務省消防庁;平成25年実績)

	東京都	全国平均	全国比	順位
119番通報から病院等への收容時間(分)	54.6	38.7	1.42	1
人口1万人あたりの救急出動件数	573	462	1.24	2
救急隊1隊あたりの救急出動件数	3,101	1,175	2.64	1
人口10万対救急医療機関数	2.4	3.3	0.73	3
救急医療機関あたりの搬送人員	1,989	1,172	1.70	2
私的医療機関への搬送の割合(%)	74.5	54.2	1.37	2



## 救急告示医療機関数の推移



\* 救急告示医療機関数は各年4月1日現在



## 東京都中小規模病院の危機感

- ① 入院患者の減少
  - ・入院患者の大病院集中
  - ・介護施設等の充実
  - ⇒患者確保、**入口・出口戦略**を明確に
- ② 人員不足による病院維持困難
  - ・医師、看護師、コメディカル確保が困難
- ③ 事業承継

## 地域密着型病院における入口戦略



中小規模病院では入院患者が減少している！

- ① 外来からの患者は
  - ② 他院からの紹介は
  - ③ 救急搬送受入れは
  - ④ 訪問看護や介護施設からは
- ① ⇒ 地域からの信頼・医療の質向上
  - ② ⇒ 自院機能の明確化、医療連携の人材
  - ③ ⇒ 体制整備；マンパワーの確保、方針の徹底
  - ④ ⇒ 介護保険制度への理解、連携・応需

## 等潤病院の最新医療機器



320列CT (AQUIRION ONE)



バイブレン血管造影装置



3テスラ MRI Vantage Titan



## 地域密着病院の出口戦略

確実な退院先の確保が重要。投げ出したら、リピーターは期待できない。

・一般急性期病院では、病床稼働率92%、平均在院日数20日を確保するため、100床あたり毎月140名の入院患者・退院患者を確保

- ① 他病院への転送（川上）
- ② 他病院への転送（川下）
- ③ 老健などの介護施設へ
- ④ 自宅へ

- ①⇒ 少数、送り先は当院の評価
- ②⇒ 回復期リハ・療養病床との医療連携
- ③⇒ 一体的退院調整、強力な連携・グループ化。自前確保
- ④⇒ 訪問診療・訪問看護・訪問リハ等の在宅サービスの充実。自前で展開、又は他グループとの連携



## 出口問題に対する自院の取組(1)

- ・ 医療の質向上：DPC対象病院、病院機能評価、エビデンスに基づく医療の実践
- ・ リハビリテーションの充実：入院後早期よりリハビリテーション、嚥下評価・嚥下リハ開始、NST（栄養サポートチーム）

術後リハビリテーション早期実施（H26.4～EVEデータ）

	等潤病院	全国平均
実施率	35.7%	21.6%
開始日	1.61日	3.63日

- ・ 医療連携室の充実：入院時より退院調整、介護保険の職員への理解・浸透
- ・ 在宅・訪問診療の充実



## 出口問題に対する自院の取組(2)

- 法人内介護事業所との統合・連携  
居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション
- 介護老人保健施設イルアカーサ開設、グループホーム等との法人内連携
- 他施設（特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、サ高住）との提携、連携強化
- I T C 活用による情報連携

## 常楽診療所訪問診療実績(H25年度)



患者総数238名	
平均年齢84.3歳(39~108)	
新規患者82名	
①慈生会内部	39 (48%)
等潤入院	26
等潤外来	11
常楽外来	2
②足立区内	29 (35%)
入院	5
外来	15
その他	9
③足立区外	14 (17%)
国立がんセンター	6
大学病院	2
都立病院	2
その他	4

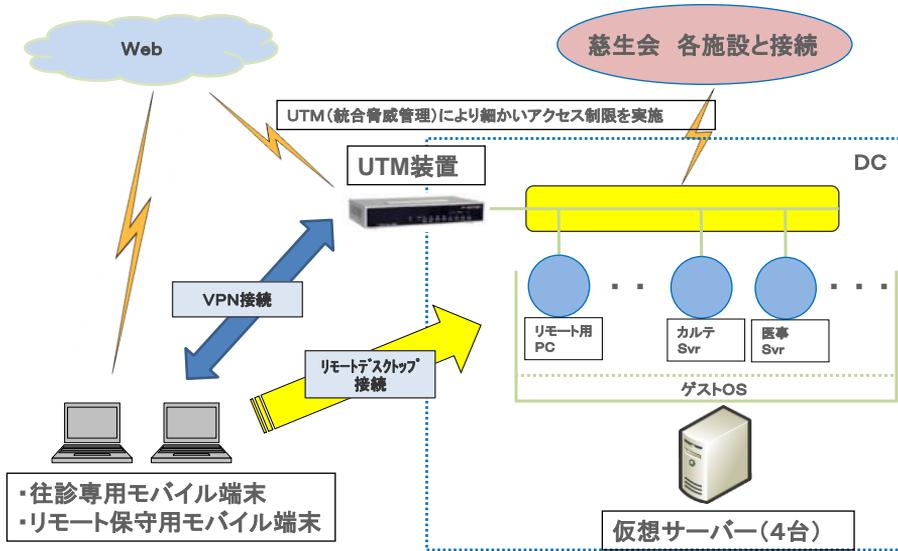
### 在宅から等潤病院に入院\*

患者数	142 (5.4%)
救急搬送	98 (5.1%)
救急外来受診	18
予定入院	26
終了患者転帰	79名
死亡	50
在宅看取り	28
等潤看取り搬送	5
等潤入院死亡	17

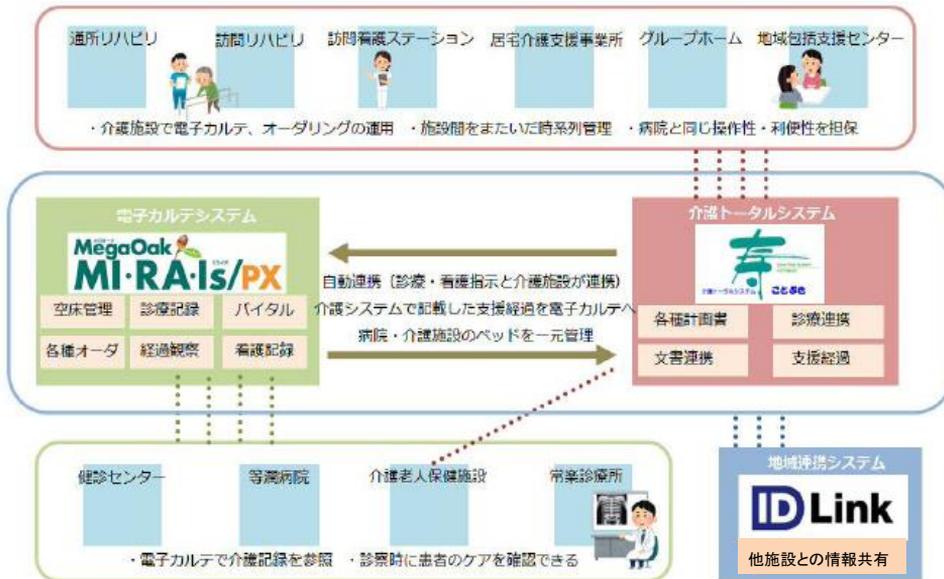
\* : 事前に病院連絡。訪問診療・病院・事業所間の電子カルテ共有



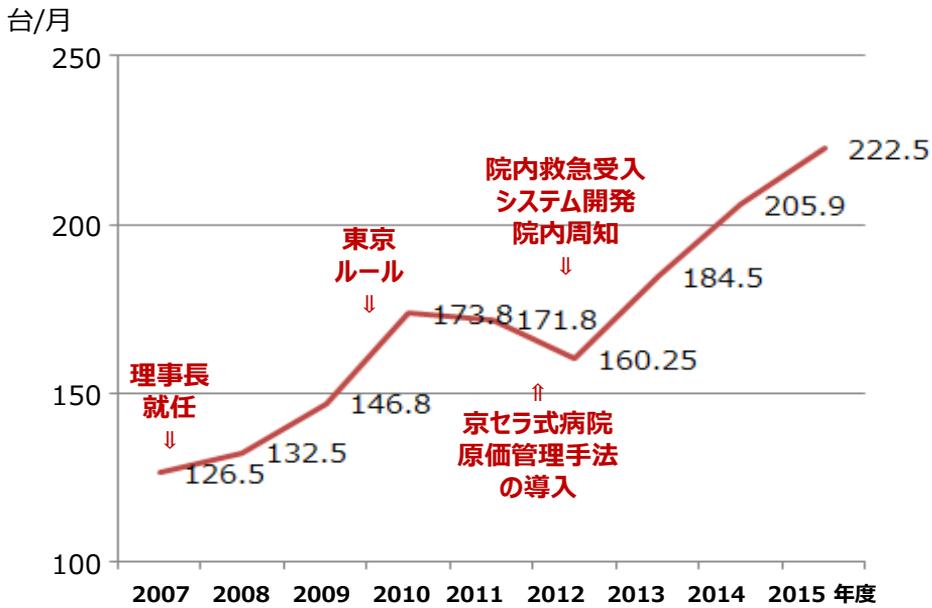
## モバイル環境からのアクセス



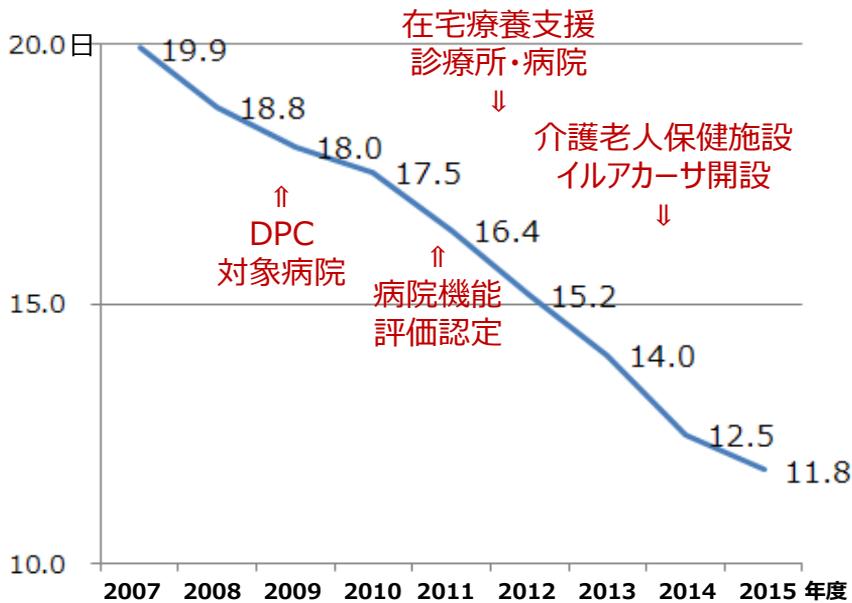
## 情報共有・開示：組織内・地域との連携



## 救急搬送数の経年的変化（月平均）



## 平均在院日数の経年的変化（一般病床）





# 慈生会理念の確立と実践

**法人理念：地域と共に生きる慈しみのトータルヘルスケア**

機能分化した入院医療

勤務環境改善・経営戦略

等潤病院

(急性一般病床、DPC病院、回復期リハビリテーション病棟、**二次救急、断らない救急・東京ルール** 健診センター、血液浄化センター、心臓血管センター、病院機能評価)

介護老人保健施設イルアカーサ

グループホーム  
常楽

地域包括支援センター  
一ツ家

通所リハビリテーション  
常楽

訪問リハビリテーション  
常楽

足立東部老人訪問看護  
ステーション

常楽診療所  
在宅療養支援診療所

居宅介護支援事業所  
常楽

**慈生会**

リハビリ強化・在宅復帰支援

連携による在宅医療・介護



ご清聴有難うございました

# 救急医療の利用について ～民生委員の活動を通じて～

港区  
救急情報の活用支援事業

「救急医療情報キット」のご紹介

**自己紹介・民生委員の活動紹介**

## 救急搬送の現状

### ●年々増加する救急出動件数

東京消防庁救急出動件数 757,609件(平成26年)  
→前年比8,577件増 5年連続で過去最多を更新  
→全搬送人員のうち34.3%を75歳以上が占めている

### ●伸びる救急隊の現場到着時間

東京消防庁現場到着時間 7分54秒(平成26年)  
→平成20年6分05秒から1分49秒も伸びている

**迅速で適切に救急対応できるように  
支援する必要があります！**

## 救急医療情報キットとは

### ●救急対応に必要な情報を冷蔵庫で保存

救急情報シート (情報提供の同意、氏名、かかりつけ医、緊急連絡先など)

本人の写真

▶ 防水加工した特殊な素材を使用

健康保険証のコピー

診察券のコピー

薬剤情報提供書・お薬手帳のコピー



### ●ステッカーで救急隊に表示

冷蔵庫の外側と玄関ドアの内側に添付

→ほとんどのお宅の台所に冷蔵庫はあるので、  
救急隊員がすぐにキットを発見することができます！



## 救急情報の活用支援事業

### ●事業概要

- 目的 万一の救急時に備えることで安全・安心を確保する
- 配布開始 平成20年から開始 **全国の自治体で初めて**
- 配布対象 高齢者、障害者、健康上不安を抱えている人
- 費用 無料
- 配布場所 各地区総合支所区民課保健福祉係  
各いきいきプラザ  
各高齢者相談センター(地域包括支援センター)等



## 救急情報の活用支援事業

### ●配布実績

年度	芝地区	麻布地区	赤坂地区	高輪地区	芝浦港南地区	合計
20	585	598	470	977	453	3,083
21	321	97	117	195	239	969
22	58	73	153	188	118	590
23	93	59	102	131	87	472
24	122	71	79	175	145	592
25	250	125	183	222	150	930
26	421	106	141	343	224	1,235
合計	1,850	1,129	1,245	2,231	1,416	7,871

**迅速で適切な救急対応に貢献しています！**

## | 救急医療に対する声

(自身の体験・民生委員の活動を通じて)